

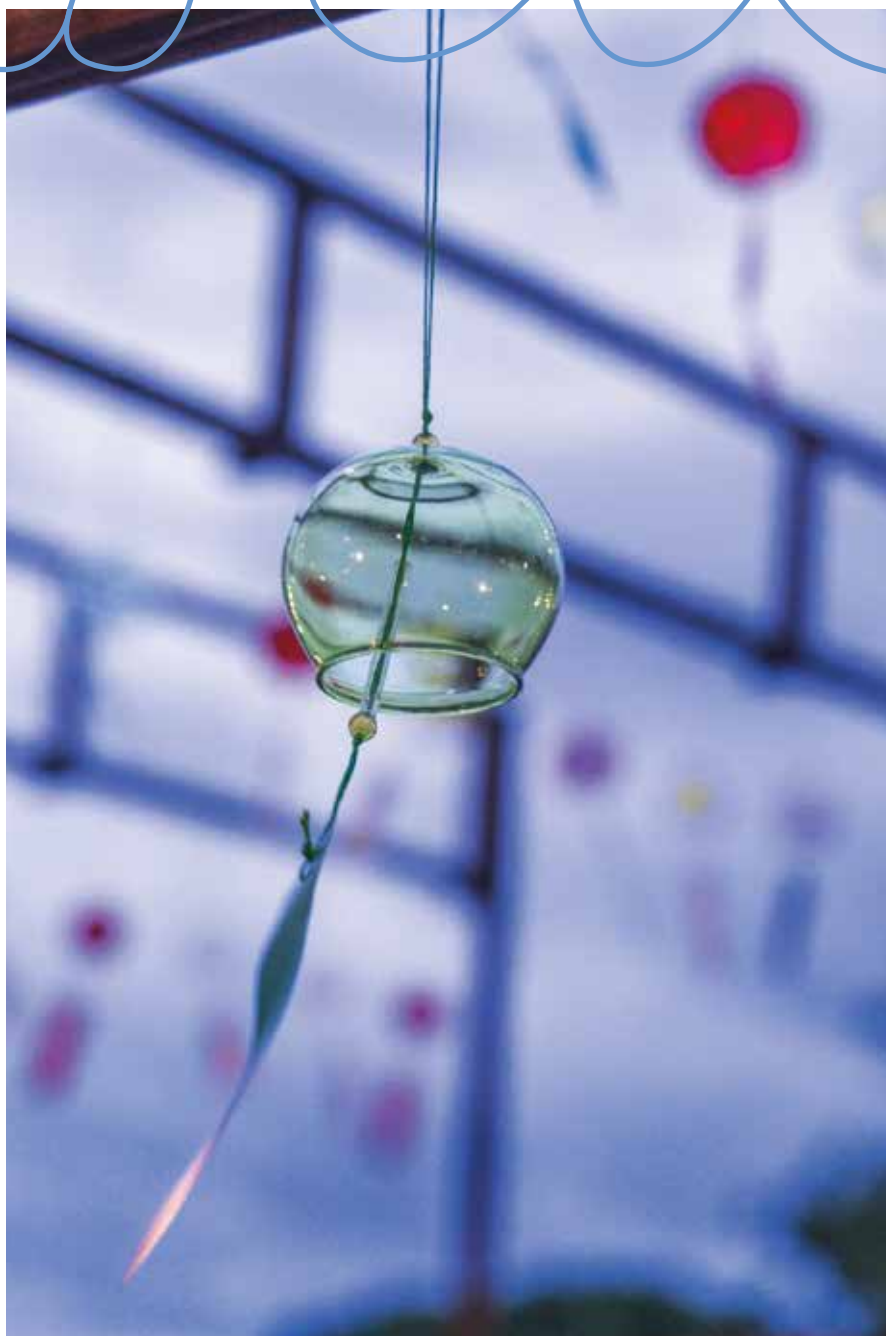
[うえる]

Vol.18

2026
Summer

Take Free

特集 「その人らしさ」に寄り添う支援



社会医療法人ましき会
益城病院
MASHIKI HOSPITAL

Contents

巻頭言	1
【特集】「その人らしさ」に寄り添う支援	2
【特集】アンサング・ヒーロー／リハビリテーション科	4
心の健康フェスタ／犬飼記念美術館	8
からだと心に栄養を！栄養管理科レポート	9
こころ相談室	10
家族会	11
研修と院内勉強会	12
75周年スタッフジャンパー紹介／職員往来／	
病院行事・実習生受入実績／診療実績	13

基本理念

Our Philosophy

社会医療法人ましき会は、患者さんとそのご家族に対し、最善のプロフェッショナルサービスを提供し、精神科医療の責任ある担い手として、地域の医療・福祉・文化に貢献します。

患者さんの権利と義務

Patient Rights And Obligations

1. すべての個人情報を守られます。
2. 医療上の情報について十分な説明を受けることができます。
3. 医療行為について自ら選択することができます。
4. ご自身の負担で、他の医療機関の医師の意見を聞くことができます（セカンドオピニオン）。
5. いかなる場合も人格的に尊重され、平等な医療を受けることができます。
6. 適切な医療のために必要な情報を伝え、主体的に治療に参加してください。
7. 病状の改善及び共同生活を維持するため、規則や指示を守ってください。
8. 医療にかかった費用を支払う義務があります。

職員の倫理

Ethics Of Staff

1. 益城病院の基本理念・行動指針を自己の行動規範とします。
2. 医の倫理を踏まえ、患者さんの権利を尊重し、希望のもてる医療を行います。
3. 仕事に誇りを持ち、全ての患者さんに公平・平等な医療を行います。
4. 質の高い医療を提供するため、自己啓発に努め、自身の健康増進に努めます。
5. 温和で謙虚、協調と礼節を重んじ、患者さんや地域からの信頼を得よう努めます。

5つの誓い

Five Oath

1. 私達は、精神科医療を通じて社会貢献に努め、社会医療法人としての公益的使命を果たします。
2. 私達は、こころを病む人々に対し、尊厳を損なうことなく、心身の健康づくりに努めます。
3. 私達は、こころを病む人々が、地域で安心して暮らせる環境づくりに努めます。
4. 私達は、お互いの立場を尊重し、働きがいのある職場づくりに努めます。
5. 私達は、医療の質を高めるため、日々、自己研鑽に努めます。



『カタルシスと アールブリュットの可能性』

会長 犬飼 邦明

KUNIAKI INUKAI

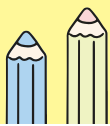
医学部学生の頃、フロイトの精神分析理論における幼児期体験と不安の源泉について学びました。自由連想法や表現療法を用いてカタルシスを行い抑圧された感情に伴う不安軽減を図る精神分析の基本といえるものでした。精神科医になりたての頃、県の精神保健センターの相談業務に関わった際に、箱庭療法を知りました。床をくり抜いた1メートル四方ほどの砂場に今でいうフィギュア人形や家や樹木などのミニチュア模型が準備されており、心理士と共に子供たちが自由に配置しながら物語を語るというものでした。また、益城病院に入ってバウムテストという描画検査があるのを臨床心理士の方から教わりました。

益城病院のリニューアル草創期の頃、多くの精神科病院の見学に行きました。中には院内の至る所に絵画が掲示してあったり、患者さんの作品展示のための美術館を備えたり、さらに芸術療法として専門職を採用しているところもありました。足元では、益城病院には元々農作業用の畑があり患者さんと職員が汗水垂らして収穫したお芋や野菜を中庭に集まってみんなで調理したりしていました。これを発展させようと園芸療法士を採用し本格的な温室を作り院内を花で満たした時期もあります。作業療法の一環として粘土をこね電気窯で陶芸作品を作ったり、体育療法士を入れて体を動かし、得意なスポーツに汗を流す事で内なる不安や葛藤を軽減する表現療法を導入しました。その結果、音楽療法や心理劇など精神科医には手の出にくいアプローチが様々な場面で

展開されるようになりました。

その頃だったでしょうか、アール・ブリュット (Art Brut) という言葉を知りました。当時は、ブルーな心情を絵画や陶器制作などアートを通して表現すること (Art Blue) と理解していましたが、伝語の真意は「生(き)の芸術」「既存の表現に縛られないアート」という意味でした。旧益城病院内に思い切って美術館「こころと心のミュージアム」を作り、文化事業部として後押しする事にしました。そこには、患者さんの自己表現の場としてだけでなく精神科病院のもつ閉鎖的イメージを開放してご家族や地域の皆様の近接性を高める目的もありました。参加型自己表現の場としてこれからもプロアマ問わず職員や患者さんや近隣の皆様の作品展示の場として提供できればと考えております。

最近、瀬戸内の直島を訪れる機会がありました。四国の多くの小島にはアート作品展示場があり4年に一度国際芸術祭が開催されていることは以前から存じていましたが、想像以上のものでした。わずか人口2千人程度の島に年間100万人以上が訪れたと聞き、その独創性と島を挙げて隅々まで行き届いた心配りに感動しました。何故このような企画が永続しているのか、出資者や出展者に限らず島民の皆様が文化芸術活動に関わることで心の安堵感を得ることができ、結果的に過疎化対策にも役立っているとするなら、益城町も参考にできるのではないかと思いつつながら船を降りました。



創作活動を通じて

精神科デイケア
看護師 藏田 恵子

デイケアでは、集団での大きな作品や、個別の作品を制作しています。作品のテーマに沿って、その瞬間に感じたことを自由に表現してもらうことで、個性のある作品ができます。創作には上手や下手は関係ないこと、人と比較するものではないこと、作品に正解はないことを伝え、自由に表現し、楽しく制作に取り組めるように前向きな言葉かけを行っています。

作品を展示することで、他の方から評価され会話が笑顔が増えます。満足感や自己肯定感が高まり、次回の作品作りへの意欲が湧きます。創作活動を重ねることで新しい挑戦への意欲やアイデアが湧き、感動を与える作品へとつながります。

あるメンバーさんは、塗り絵をきっかけに色鉛筆で点描画の風景を描き、独自の世界観を持った個性ある作品を作り上げました。作品そのものもそうですが、制作に取り組む姿勢の真剣さにも驚き、感動させられます。今後も自由に楽しんで創作に触れる機会を増やし、さらに創作活動を好きになってもらえるよう色々と模索しながら続けていきます。



デイケア前廊下壁面にある作品展示コーナー『ウォーク イン ギャラリー』

精神科デイケア参加者からの一言

手芸、編み物など手仕事、手を使ってする作業は何でも好きです。目が白内障でつらく、足腰も痛いけど、デイケアでは好きな創作活動ができて通うのが楽しいです。みんなの作品を見るのも楽しいです。出来上がった作品を展示してもらおうと気分が良くやる気に繋がります。北斎の富士山の創作をしたいとアイデアを出して、それが実現しました。みんなで作品を作り上げるのが楽しみ。言ったことが叶っていくので見るのも作るのも楽しみ。デイケアでは、やりたいことがいっぱい、出来上がったときに達成感があります。



Mさん(共同で創作活動)

デイクアでみんなで創作するのが楽しみ。作品の感想を話し合ったり、アイデアを出したりすることが楽しみに繋がっています。

Sさん(共同で創作活動)



千代紙を切ってねじって小さくしてボンドで貼り付ける貼り絵を作っています。下書きはスタッフがしてくれます。お手本があるので、元の絵を見ながら頭の中でイメージして作っています。一週間に2回しかデイクアに参加しないので作品を作り上げるのに2ヵ月くらいかかりますが、創作するのが楽しみです。やり始めたら最後まで飽きずに取り組みます。

Uさん(個人で貼り絵を作成)

アクリル絵の具を数種類混ぜて色を作り卵の殻に塗って乾かし、殻を小さく割って卵殻モザイクの作品を作っています。ボンドで貼り付け、カラフルで立体的な作品ができます。ましまるの誕生日には、毛糸を切って、小さく割いてボンドで貼り付けた作品を作りました。創作活動は前から好きだったけど、デイクアで冗談を言いながら楽しい雰囲気の中で作品作りができるのが好き。次は何を作ろうかなと考えるのも楽しい悩みです。



Iさん(共同・個人で創作活動)

下書きはせず景色を覚えています。木にこだわって描いています。絵は習ったわけではないけど、音楽の次に創作活動が好きで、デイクアで創作するのが楽しみです。

Tさん
(個人で絵画、住まいから見た景色を点描で作成)



縁の下の力持ち アンサンブル・ヒーロー

リハビリテーション科「作業療法士」 ～その人らしさを取り戻すための作業療法～

そもそも「作業」とは何か？ということがイメージしづらい人もいるのではないのでしょうか？作業療法の分野では、食事や入浴などのセルフケア、家事、仕事、余暇活動や地域活動など、人の日常生活に関わる活動のことを「作業」と呼びます。作業療法士は、この「作業」を通して、“その人らしい生活や生きがいを取り戻す”ことを目指します。



UNSUNG HERO

作業療法士ってどんな仕事？

作業を通して運動や精神、認知などの「基本的動作能力」、食事や入浴などの「応用的動作能力」、余暇活動や地域活動参加などの「社会的適応能力」の改善をサポートするのが作業療法士です。

理学療法士との違いは？

当院には作業療法士と理学療法士の2つのリハビリ職がありますが、『理学療法士及び作業療法士法』では、理学療法士が「基本的動作能力」を対象とするのに対し、「応用的動作能力」と「社会的適応能力」を対象とするのが作業療法士である旨の記載があります。しかし、この3つの能力は独立しているわけではなく、相互に影響をしていますので、対応方法の違いはあるものの、“その人らしい生活や生きがいを取り戻す”という目標は同じで、相互協力が欠かせません。



作業療法士が目指すもの



リハビリテーション科 主任
作業療法士C(精神療養)病棟担当

本村 一生

精神科作業療法では、算定要件が集団を対象としていることもあり、個別的な対応が不十分になりがちな部分がありますが、疾患の多様化や高齢化に伴い、今後ますます個別対応の充実が求められるのではないかと思います。

今、当院のリハビリテーション科には身体障害領域の経験のある作業療法士や理学療法士が在籍しているので、精神科領域のキャリアの長いスタッフと知識や技術を高め合い、心と体の両面にアプローチできるようなチームづくりを実現したいと思います。



急性期病棟では、多職種連携が命!

急性期に対応するA病棟では、医師をはじめ看護師、精神保健福祉士、公認心理師、作業療法アシスタントなど、多職種のスタッフと連携しながら、患者さんの回復とその先の暮らしを支えています。活動を通して、体調や生活状況を一緒に振り返り、再発時の対処法を確認するクライシスプランの作成も行います。

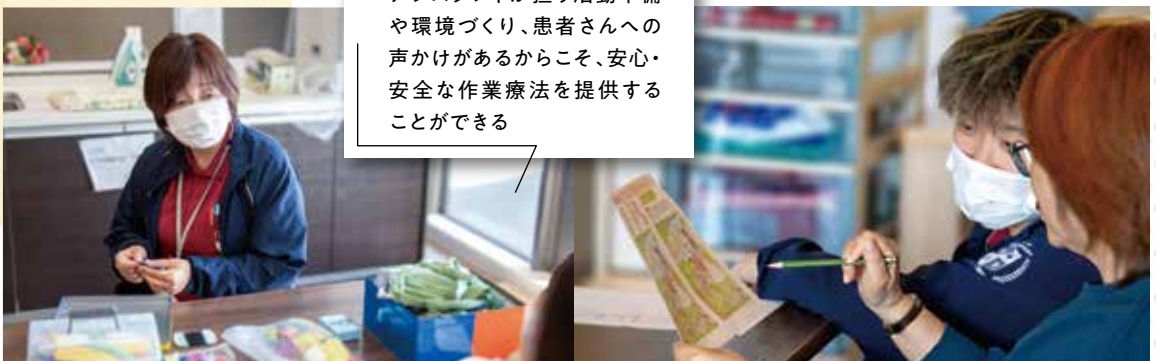
アルコール依存症の方には、個別学習や生活の振り返りを行いながら、再飲酒を防ぐための工夫をともに考えます。また、外来作業療法や退院後の訪問支援、地域との連携を通して入院中から継続的に関わり、安心して地域生活を続けられるよう支援していきます。



リハビリテーション科 作業療法士
A(精神科救急急性期)病棟担当

斉藤 直人

アシスタントが担う活動準備や環境づくり、患者さんへの声かけがあるからこそ、安心・安全な作業療法を提供することができる



入院長期化に対応した作業療法



リハビリテーション科 作業療法士
B(精神療養)病棟担当

金棒 真裕子

入院が長くなり病棟から出る機会が少ない患者さんのために、B病棟では外出訓練や体育館でのスポーツなどの機会を作っています。一般科とは異なり、精神科では集団での対応が主ですが、当院でも、集団で関わることで所属要求の充足や相互サポートが得られるという利点に着目し取り入れています。個別対応と比較すると患者さんとの関わりが薄くなりがちですが、定期的に少人数での訓練も行い、多彩なプログラムで個別に近い関わりも持てるよう心がけています。

アシスタントとペアで実施することで、より深く満遍なく患者さんに関ることができる



一人ひとりに合ったリハビリを目指す



リハビリテーション科 理学療法士

平野 智大

理学療法士は、身体機能の評価をしたあと、個人に合わせた治療プログラムの提案、一对一の個別リハビリを実施しています。起きる・立つ・歩く・座るなど、基本的動作能力(ADL)の改善を第一目標に置き、歩行具の選定や寝たきりの方への姿勢調整、自主訓練の指導を行います。さらに退院後も個別訪問などを実施して機能改善につなげています。

精神疾患や認知症を抱えた方への理学療法は思いどおりに進むことが少ないですが、患者さん一人ひとりに合った方法を見つけ出し、訓練に取り組みされる姿勢と改善していく姿を見ることはとてもやりがいがあります。

まずは安心感と穏やかな環境づくり



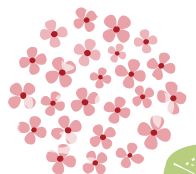
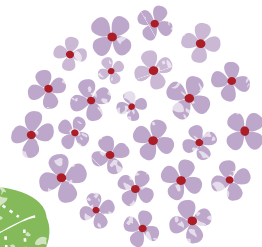
リハビリテーション科 作業療法士
D(認知症治療)病棟担当

西川 枝里子

認知症治療病棟での取り組みは、身体機能の回復を主な目的とする一般科の作業療法とは少し視点が異なります。身体面への支援に加え、認知機能や精神症状の特性を踏まえ、不安や混乱を軽減し、心が穏やかに過ごせる環境づくりと安心できる関わりを大切にします。

さらに、その方の生活歴や強みを生かした支援を心がけ、本人の意図しない制限を緩和するため多職種で継続的に検討を行います。“安全とその人らしさの両立”を目指して具体的なケアを見直し、生活機能の維持向上と穏やかな環境づくりを支えています。

患者さんは、身近にいるスタッフとの活動によって日常の中にある小さな変化や「できた」を丁寧に積み重ねていく



「心の健康フェスタ」に参加して

昨年12月、下通アーケードで開催された「心の健康フェスタ」の展示会に参加しました。毎年、病院や施設などから多くの参加があり刺激を受ける展示で、私たちは病棟やデイケアで作成した作品を出展しました。

今回は、観に来られた方からお褒めの言葉を頂いたり作り方を尋ねられ、購入希望の声までありました。当日、会場に見学に来ていた患者さんは直接その言葉を聞いて大喜びし、また、私たちも多くの方々の声を聞くことで刺激を受ける良い機会となり、一同嬉しく思っています。

会を重ねるごとに患者さんの制作にも熱が入り、豊富なアイデアが出されるようになってきました。

作品がこのように多くの方々の目に触れることで、デイケアでの過ごし方が以前より前向きになっているのを感じます。

精神科デイケア
作業療法士 木戸 拓耶



「こころと心のミュージアム」の今

大飼記念美術館
こころと心のミュージアム

大飼記念美術館 理事 田中 洋子

松下恵美子・飯干絢介コラボ作品「ひのきで咲く薔薇展」を3月9日～13日まで開催しました。宮大工で建築大工1級技能士の飯干氏の確かな手仕事によって、檜が紙より薄く削られます。それを、フラワーアートの松下氏が一枚一枚慎重に花びらのように重ね、薔薇の花を作成しました。二人の慎重な手仕事から職人としての姿勢が伝わります。初めての開催で来客も多く、最終日の13日は午前と午後2回の実演がありました。出来上がった薔薇は木の香りとぬくもりをまといながら、静かに咲き続ける枯れない花です。二人の感性が出合い、木から花へ昇華させた展示でした。





デイケア料理教室のご紹介

デイケア料理教室は、単身生活の方や料理に挑戦したい方などを対象とした5～8人ほどの少人数グループの教室。精神科デイケアの活動の一つで、月に1回開催しています。

教室の目的は？

在宅生活において必須となる「食事」。食の専門家である管理栄養士が関わり、調理をしながら、余った食材の保存方法や活用方法、栄養のポイントについても学んでもらうことを目的として始めました。教室ではデイケアのスタッフも交わり、対象となる患者さんの選定や教室の雰囲気づくり、調理室や調理器具の管理などを担当してもらいます。

どんな料理を作るの？

料理をする機会が少ない方でも取り組みやすいように、カット野菜やどの家庭にもある調味料、味付き加工品などを利用し、簡単で一品でも食事のバランスがよい料理を紹介しています。レシピ名を聞いて、どのような料理が驚かれることもあります。「これなら家でも作ってみよう！」そう思ってもらえることがやがていになっています。

これまでの料理例

「豆腐もち」

豆腐と片栗粉で作る「お餅」！高齢の方にも食べやすく、鏡開きに合わせて紹介しました。

「うどん餃子」

難易度の高い手作り餃子ですが、切ったうどんと餃子の具を混ぜ合わせて、丸めて焼くだけの「なんちゃって餃子」を作りました。

「オクラとツナの子デミ」

オクラとツナ、小麦粉を混ぜて食事のバランスもGood!!なレシピです。

「いわしの磯辺焼き」

魚料理にも挑戦！いわしの水煮缶を使って磯辺焼きにしました。



今回の料理教室は / 「ジャガイモを使用したボロネーゼ」に挑戦

Let's Cooking



火が通ってくると、にんにくの良い香りが



YUMMY!

完成した「じゃがいものボロネーゼ」



ホクホク新じゃがで、マカロニが入ってなくてもとても美味しく食べられました



最後に管理栄養士によるポイント解説が行われます

心の病気や不調など私たちにとって身近な問題について、
精神科の専門医がアドバイスします！



こころ 相談室

第14回 「パニック障害」

パニック障害は、突然、前ぶれなく強いパニック発作に襲われる病気で、発作への不安から外出や公共の場を避けるなど、日常生活に支障をきたします。パニック障害の実情や治療法について、榎村医師にお聞きしました。

Q1 パニック障害は どうして起こるのですか？

パニック障害の明確な原因はまだ解明されていませんが、脳内の神経回路や神経伝達物質のバランスの乱れが関与していると考えられています。なぜそのような乱れが起きるのかは分かっておらず、心理的なストレスや環境変化、遺伝的な要因などが関係しているのではないかと考えられています。

Q2 パニック障害の 発作時の症状は？

パニック発作時には身体的・精神的な症状がみられます。身体的には、激しい動悸、息苦しさ、過呼吸、胸の痛みや圧迫感、手足のふるえやしびれ、冷や汗、吐き気や腹部の不快感、めまい、ふらつきなど。精神的には、「このまま死んでしまうのでは」という強い恐怖感、気が遠くなる感覚が症状として挙げられます。突然起こり数分～30分ほど続くことが多いです。とても不快な症状ですが、身体に危険はありません。



医局 榎村 仁美

Q3 パニック発作と パニック障害の違いは？




パニック発作は先に述べたような症状が突然、きっかけや前触れなく起きるもので、まれなものではなく、1年間に11%の人がパニック発作を経験するという報告もあります。多くの方は自然に回復しますが、その中でパニック障害に至る方がいます。パニック発作を繰り返し起こし、また発作が起こるのではないかという強い「予期不安」と、発作が起きた際に“逃げられない”と感じる場所や状況を避ける「広場恐怖」が生じた状態をパニック障害といいます。

Q4 対処法、治療法を教えてください。

治療法は、薬物療法と精神療法が両輪となります。薬物療法は、不安を和らげ、発作の予防と頻度を減らす目的で抗うつ薬(SSRI、SNRI等)を、発作時の急性症状を抑える目的で抗不安薬を用いることが標準的です。精神療法では個々に応じたアプローチが用いられます。

Q5 本人や周囲の人が気をつけることは？

パニック発作が何度も起き、発作に対する不安感が強くあるなど日常生活に支障が出ている時は早めの医療機関への受診をおすすめします。また、他の身体的な疾患でもパニック発作と同じような症状が生じる事があるので、医師の診察を受けることが大切です。さらに、生活習慣の改善も大切です。規則正しい生活リズムや適度な運動、ストレスを軽減・発散する方法を見つける、カフェインやアルコールの過剰摂取を控えるなどを心がけてください。

REFLECTION01 

患者さんとご家族の思いに気づかされる家族会

D(認知症治療)病棟

看護師 高村 奈央稀

今年度の家族会では、益城病院認知症疾患医療センター長の遊亀誠二先生より「認知症の問題行動の理解や対応について」の講演がありました。認知症の歴史から現在の新しい薬物治療など多岐にわたる内容で、遊亀先生ならではのユーモアを交えてのお話にご家族から笑いがこぼれ和やかな雰囲気でした。

会の後半の茶話会では、患者さんが自宅で生活していた時のさまざまなエピソードを、時には涙ながらに語られるご家族の様子が、強く印象に残りました。

今回の家族会を通して、患者さん一人ひとりに生活背景があること、入院生活に対するご家族の不安や心配を実感しました。今後も、患者さんやご家族からの視点を大切に看護にあたります。



REFLECTION02 

ひたすら楽しい家族会を！

高齢者グループホーム「ふるさと」

施設長 遠藤 知美

「2カ月に一度、みんなでおいしいものを食べて大笑いする日。」それがふるさとの家族会です。入居者やご家族・地域の方々と秋祭りを実施したり、昔懐かしい喫茶店のような雰囲気の中で甘いコーヒーを飲みながら、歌謡曲を歌ったりしています。

年を重ねると、親子で大笑いする機会は少なくなります。若い頃は、ちょっとしたことで涙を流すほど大笑いしたのに・・・そこでふるさととは、ただひたすら楽しい家族会を目指しています。認知症で、「何をやったか」は忘れてしまっても、「楽しかった！」というその時の気持ちは、きっと心のどこかに残っています。

ふるさとの理念は「みんなが笑顔で暮らせるように」です。これを読んでくださっている「あなた」もその一人です。ふるさとへどうぞ遊びに来てください。一同でお待ちしています。



研 修 と 院 内 勉 強 会

院 内		
12月	1・2日	虐待防止委員会研修①
	6日	第15回院内学会
	9日	看護補助者活用のための研修
	12日	認知症初期集中支援チーム員伝達研修会(鈴木田幸代・松下聡)
	15日	看護補助者研修
	17日	大塚製薬Web講演会「うつ病のより良い治療について考える」
	20日	包括的暴力防止プログラム(CVPPP)院内研修③
	23~26日	院内感染対策全体研修②
	26日	認知症対応強化勉強会
1月	13・19日	看護補助者研修
	20~22日・30日	放射線診療従事者に必要な診療用放射線の基礎知識と安全管理に関する研修
	21日	ツムラ「精神科×漢方ランチタイムセミナー」
	26・27・28・29日	看護職員のセルフケアマネージメント研修
2月	26日	働き方改革関連法に関する研修会
	12日	第5回依存症治療に関わるスタッフミーティング(甲斐優希・岩谷優)
	16・17・18・19日	第2回行動制限最小化委員会研修
3月	2・3・4・5・6日・3月6日	第2回障がい者虐待防止委員会研修
	1日	AD National Symposium in2026(遊亀誠二)【研修会】
	16・17・18・19日	看護補助者研修
	23・24・25・26日	第2回個人情報保護委員会職員研修会
26日	看護研究事前学習会(講師 九州看護福祉大学 上田智之教授)	
院 外		
12月	6日	熊本地区薬学研究会(小松哉子)
	8日	済生会病院院外新人看護師技術研修(松本未羽・佐々木慎介・高村奈央稀)
	9日	熊本の認知症診療を考える会(犬飼邦明)【講演会】
	10日	医療経営を向上させる次世代リーダー能力アップセミナー【WEB】
	13日	日精看熊本県支部研修会(米村孝史・鈴木浩)
	13日	上益城地域看護連携推進強化検討会研修(伊津野智士・西村絵美子・藤本和秀・鈴木田幸代)
	14日	第21回入吉球磨地域合同断酒大会(松永哲夫)【会議】
	18日	日精協精神科病院における安心、安全な医療の提供するための研修(松本早紀・高村奈央稀・藤野真実・野田琢人・溝口成美・吉澤友希)【WEB】
1月	22日・1月13日	産業医スキルアップ専門研修会(未永英士)【研修会】
	14日	特別管理産業廃棄物管理責任者に関する講習会(土屋博)
	23日	熊本県依存症拠点病院関連研修(松永哲夫)
	26日	Kisunla Lunchtime Web Seminar(WEB)(遊亀誠二)【講演】
	29日	認知症初期集中支援チーム地域活動地域講座(福島郁雄)
2月	29日	熊本市介護保険主治医研修(遊亀誠二)【講演】
	5日	認知症初期集中支援チーム員フォローアップ研修会(松下萌子・鈴木田幸代)
	7日	熊本県かかりつけ医認知症対応力向上研修(遊亀誠二)【講演】
	12日	精神看護初任者研修会オンライン研修(永田沙織・鈴木田幸代・守永愛実・甲斐田美和・鴨池賢宏・徳永祐子・村上優子)
	16日	塩野製薬「サズベイWEB説明会」
	18日	熊本県県央障がい者相談支援事業連絡協議会臨時総会および研修会(金子真貞・岩木瑞希・田中美奈)
	21日	熊本精神神経学会総会(犬飼邦明)【学会】
	24日	第67回熊精協コ・メディカル部小委員会研修会(森慎也・本村一生・溝口成美・吉澤友希・伊豆野乃紅・西田奈月美)
	25日	益城町認知症多職種協働研修会(福島郁雄・西山佳子・大宮理絵)
	25日	第30回熊本脳機能画像研究会(犬飼邦明)【研修会】
3月	27日	大塚製薬Web講演会「統合失調症とうつ病のより良い治療について考える」
	1日	AD National Symposium in2026(遊亀誠二)【研修会】
	2日	認知症疾患医療センター全国研修会/池田学教授講演(WEB)(犬飼邦明)
	3日	認知症サポーターステップアップ講座(吉村裕子)【講演】
	3日	上益城地域精神保健福祉連絡会及び幹事会(渡邊信夫・大宮理絵・金子真貞・蘭野あかね)
	4日	益城町ゲートキーパー養成講座(田中美奈・大宮理絵)
	4日	城北地区養護老人ホーム連絡協議会施設長・事務員研修会(未永英士)【講演】(福島郁雄)
	4日	上益城地域特定給食施設等研修会(西富由紀・西優華)
	10日	益城町民生委員・児童委員役員会認知症地域啓蒙活動報告(福島郁雄・大宮理絵)
	11日	上益城圏域自立支援協議会精神障がい者支援部会(鈴木一史・吉澤友希)
	11日	依存症専門医医療機関オンライン情報交換会(松永哲夫)【講演】
	12日	大塚製薬Web講演会「統合失調症とうつ病のより良い治療について考える」
	13日	熊精協事務長会研修会(橋本久美・林田新吾)
	18日	ユーザービージャパンWebセミナー「てんかんの治療をどうするか」
24日	熊本県障害者虐待防止・権利擁護研修(梅田亮一・山下義晴・伊津野智士・米村孝史・榮永紘之)	
26日	BPSDオンラインセミナー【大塚製薬】(遊亀誠二、他9名)	
27日	熊本県精神科救急病棟スキルアップミーティング(渡邊信夫・梅田亮一・山下義晴・本村小百合・岩谷優・無田千穂)	



75th スタッフジャンパーのご紹介!!

益城病院創立75周年を記念し、病院の歴史を共に祝う特別なアイテムとして、スタッフジャンパーを作成しました。新しい病院エンブレムとロゴがデザインに取り入れられた、ホワイト、ネイビー、グレーの3色のラインナップ。日常業務に適した機能性と耐久性を備えた素材で、快適な着心地とスタイリッシュなデザインが特徴です。

職員往来

新しい職場でがんばっています。よろしくお祈りします。

2025年8月2日～2026年4月1日

	フリガナ	①趣味・特技
	氏名	②志望理由
	入職年月日	③ひとこと
	所属	
	職種	

	カワサキ ユウコ	①バスケット観戦、ライブを見に行くこと。
	川崎 祐子	②新たな気持ちで働きたいと思いを希望しました。
	2026/4/1	③地域連携室なので顔を合わせた時には声をかけてもらえると嬉しいです。笑顔で楽しく頑張ります。
	地域連携室	
	精神保健福祉士	

	フジタ リュウイチ	①音楽鑑賞、器楽演奏
	藤田 隆一	②派遣のため
	2026/4/1	③患者さんお一人お一人のお話を丁寧に聞ける医者になりたいです。宜しくお願いします。
	医局	
	医師	

	マツモト ワタル	①ドライブ、映画鑑賞
	松本 航	②これまで医療現場で学んできた事を生かし地域の方々を支える仕事をしたいと考えたため。
	2026/4/1	③早く仕事を覚えられるよう頑張ります!よろしくお祈りします。
	ひろやすクリニック	
	医師	

	ナカムラ コウスケ	①ゴルフ
	中村 洸介	②熊本大学病院循環器内科より来ております。
	2026/4/1	③益城町の医療に貢献できるように精一杯頑張ります。
	ひろやすクリニック	
	医師	

	ヒラヤマ アユミ	①読書
	平山 歩未	②熊大消化器内科より派遣で内科外来の業務をさせていただきます。
	2026/4/1	③研修医の時に精神科研修でお世話になりました。またこのような形でご縁をさせていただけて嬉しいです。宜しくお願いします。
	ひろやすクリニック	
	医師	

実習生受け入れ実績

12月	九州看護福祉大学看護学科看護臨床実習
2月	熊本総合医療リハビリテーション学院 作業療法学生 尚絅大学管理栄養士養成課程学生実習

診療実績

単位：人

区分	12月	1月	2月	3月	
外来	外来患者延人数	3,110	2,848	2,888	3,123
	(うち新規患者人数)	55	38	36	53
	平均外来患者人数	135.2	129.5	130.9	124.9
入院	新入院患者人数	37	36	21	34
	退院患者人数	39	38	28	24
	在院患者延人数	5,691	5,647	5,043	5,732
	平均入院患者人数	183.6	182.2	180.1	184.9
平均在院日数(単位:日)	149.8	152.6	205.8	197.7	

病院等行事

2025年12月～2026年3月

12月	6日	心の健康フェスタ参加(金子真弓・木戸拓耶・金棒真裕子)
	9日	電気保安協会点検
	10日	イルミネーション点灯式
	17日	立入検査(御船保健所)
	28日	忘年断酒会(松永哲夫)
1月	5日	年頭式
	12日	木山神楽舞奉納/文化部主催
	14日	精神科病院実地指導(熊本県障がい者支援課)
	15日	福岡県精神科病院協会北九州ブロック看護部長会(施設見学)
	17日	電気保安協会点検
	17日	人権フェスティバル参加(チームオレンジ/販売)
	19日	職員特定健診(準夜勤者対象)
	23-24日	茨城県栗田病院来院(病院見学)
2月	31日	くまもと青明病院来院(施設見学)
	4日	第51回衆議院議員総選挙及び第27回最高裁判所裁判官国民審査不在者投票
3月	27日	院長・各部署情報交換会
	11日	いっす施設見学(向陽台病院グループホームスタッフ)
	19日	第6回グループホームふるさと運営推進会議・家族会総会
	25日	共同住居火災訓練
	26日	病棟現地調査(御船保健所)

編集後記



夏の渓谷

今号では「その人らしさに寄り添う支援」というテーマでした。取材を通して、アール・ブリュットの既成概念にとらわれない自由な表現、「個性の力」を感じると同時に、仕事する職員においても一人ひとりの視点や工夫により成り立っていることを再認識します。患者さんの持つその人らしさの可能性、本来持つ力の豊かさを改めて感じる機会となりました。私自身も日々の関わりの中で作品群を通して多くを学び、程良い相互関係を続けることの大事さを痛感しました。

(広報委員:医療情報室 大垣 健太郎)



社会医療法人ましき会

益城病院

MASHIKI HOSPITAL

精神科・心療内科・小児科・歯科

〒861-2232

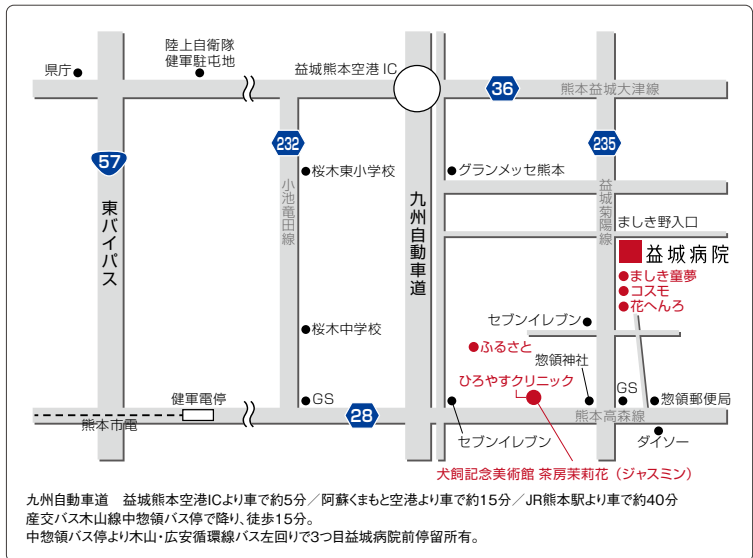
熊本県上益城郡益城町馬水123



096-286-3611

外来電話受付時間(月曜～金曜)

午前 9:00～12:00 午後 13:30～17:00



九州自動車道 益城熊本空港ICより車で約5分 / 阿蘇くまもと空港より車で約15分 / JR熊本駅より車で約40分
産交バス山線中惣領バス停で降り、徒歩15分。
中惣領バス停より木山・広安循環線バス左回りで3つ目益城病院前停留所所有。

付属施設

- 訪問看護ステーション
- 熊本県地域拠点型認知症疾患医療センター
- 共同生活援助事業所「iハウス21・XI」・共同住居「iハウスX」
- 院内保育施設「あんふあん」
- 犬飼記念美術館
- 「こころと心のミュージアム」
- 茶房茉莉花(ジャスミン)
- ひろやすクリニック
内科・消化器内科・循環器内科・呼吸器内科・糖尿病内科
- 指定特定相談支援事業所・地域活動支援センター「アントニオ」
- 就労継続支援B型事業所「ましきの風」
- 宿泊型自立訓練事業所「コスモ」
- 高齢者グループホーム「ふるさと」
- 居宅介護支援センター

関連施設

- 特別養護老人ホーム 熊本県上益城郡益城町惣領1670 「花へんろ」 TEL 096-287-8706
- 養護老人ホーム 熊本県上益城郡益城町馬水45番地3 「花へんろ」 TEL 096-286-2075

表紙タイトル:Well(うえる) “植える”にちなみ地域に根を張り、健やかな生き方をサポートしたいという願いを込めています。

表紙: 熊本市動植物園 夏の夜間開園の風鈴 撮影: 大垣 健太郎 (益城病院医療情報室職員)

発行: 社会医療法人ましき会 益城病院 広報委員会

発行日: 2026年5月15日

ホームページは
こちらから▶



Facebookは
こちらから▶



Instagramは
こちらから▶



益城病院

検索